

第3期中央区地域健康福祉計画・地域福祉活動計画の進行管理（令和4年度）

頁	目 次	【評価】
1	中央区地域健康福祉計画の目標・事業達成度の評価基準	今回（前回）
2	【02】<区づくり事業>赤ちゃん誕生お祝い会支援事業	4（4）
3	【04】地域包括ケア推進モデルハウスの設置	4（4）
4	【05】協議体設置と生活支援コーディネーターの配置	4（4）
5	【06】地域の茶の間の推進	3（3）
6	【08】あんしん連絡システム事業	3（3）
7	【09】高齢者等あんしん見守り活動事業	4（4）
8	【10】地域包括支援センター運営事業	4（4）
9	【11】老人憩いの家の活用	3（3）
10	【12】介護予防・日常生活支援総合事業	3（3）
11	【14】障がい児者基幹型相談支援センター事業	3（3）
12	【15】地域活動支援センター事業	3（3）
13	【16】成年後見支援センター事業	3（3）
14	【17】地域子育て支援センター事業	3（3）
15	【18】地域子育て支援センター訪問事業	3（3）
16	【21】地域子育て支援拠点の運営	3（3）
17	【22】子ども家庭相談	3（4）
18	【28】<区づくり事業>みんなでつながるにっこにこ子育て応援事業	4（4）
19	【29】<区づくり事業>レッツ トライ！糖尿病予防事業	3（3）
20	【32】生活困窮者自立促進支援事業	3（3）
21	【33】子ども学習支援事業	3（3）
22	【36】避難行動要支援者対策	4（4）
23	【37】<区づくり事業>避難行動要支援者関係づくり事業	3（3）
24	【39】犯罪のない地域づくり事業	3（4）
25	【44】ボランティア・市民活動センター運営・育成	4（－）
26	【46】地域福祉推進フォーラム事業	4（3）
27	【47】友愛訪問事業	4（3）
28	【50】コミュニティソーシャルワーク推進事業	5（3）
29	【52】社会福祉事業や活動の周知・広報・啓発	4（－）
30	【53】災害ボランティアセンター運営事業	4（3）

基本 理念

一人ひとりがお互いに支えあい、助けあい、
だれもが安心していきいきと暮らせる中央区

目標1 支えあい、助けあう意識を持った地域づくり

- 1 身近なつながりを広げる ～支えあいはご近所づきあいから～
- 2 ネットワークを広げる ～地域団体や事業者もつながって～
- 3 地域で子どもを育てる ～子育て世帯をまるごと支える～

目標2 つながり、協働し、だれもが活躍できる地域づくり

- 1 だれもが参加できる交流の場をつくる ～多様性を活かす場～
- 2 地域の資源を活用する ～事業所・施設、関係機関など～

目標3 いつでも気軽に相談できる地域づくり

- 1 身近なつながりで困っている人を支える ～支えあう仕組み～
- 2 情報を伝える方法を工夫する ～紙からインターネットまで～

目標4 健やかでいきいきと暮らせる地域づくり

- 1 一人ひとりが健康づくりに取り組む ～予防と改善を意識～
- 2 地域で健康づくりに取り組む ～みんなでいきいき暮らし～

目標5 安心・安全に暮らせる地域づくり

- 1 地域で見守り・声をかけあう ～日頃のつながりが大切～
- 2 地域防災力を高める ～災害時の避難体制を想定～
- 3 地域防犯力を高める ～警察などと連携して安心・安全を～

事業達成度の評価基準

- 5 : 求められる水準をはるかに上回る業績を収めた。
- 4 : 求められた以上の業績を収めた。
- 3 : 求められた業績を概ね収めた。
- 2 : 求められた水準を下回る業績しか収めることができなかった。
- 1 : 求められた業績をほとんど収めることができなかった。

【No.】 事業名	【02】 赤ちゃん誕生お祝い会支援事業 ＜中央区特色ある区づくり事業＞					
担当課・係	中央区健康福祉課 地域福祉担当					
目標No.	1	2	3			
事業目的	・ 赤ちゃん誕生を機に、地域の子育て中のママ・パパ同士だけでなく、地域住民や関係団体との交流を深め、地域全体での子育て支援と多世代が交流できる環境づくりを、地域と協働して進める。あわせて、子育て世帯が地域の茶の間などの地域で活動する関係団体を気軽に利用できるようなきっかけづくりを支援する。					
R4年度の目標	・ アンケートにおいて赤ちゃん誕生お祝い会が今後の地域との交流のきっかけになったと回答した参加者の割合90%以上。 (支え合いのしくみづくり推進員との連携) (感染症対策を踏まえた新しい観点からの開催を支援)					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末時点)
開催団体数 (申請数)	7団体 (7)	8団体 (8)	7団体 (10)	6団体 (8)	5団体 (6)	開催済4団体 (8)
赤ちゃん参加数 (申込数)	85人 (93)	116人 (137)	100人 (132)	59人 (66)	87人 (92)	77人 (88)
アンケート満足度	91%	98%	97%	88%	100%	82%
R4年度の 取組と評価	・ 申請団体8団体のうち、過去に申請実績のある団体が6団体で、お祝い会が定着していることが確認できた。 ・ 新設自治会、町内会、コミュニティ協議会に本事業の個別広報を実施した結果、新規2団体の申請があった。 ・ 開催団体と連携しながら、十分な新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、安心して参加できるよう工夫した。					
達成度 【 4 】	・ 支え合いのしくみづくり推進員の参加を働きかけ、子育て世帯と地域の関係団体との関わりのきっかけづくりを推進した。 ・ 以上から、数値未達成も満足度高く、達成度は4とする。					
R4年度の課題	・ 2団体の新規申請があったが、より多くの団体から実施してもらえるよう取り組む必要がある。 ・ お祝い会の開催後においても、地域と交流を続けることができるようにするためのフォローをより一層行う必要がある。					
今後の方向性 ・ 継続、変更点が ・ 次年度数値目標などを具体的に記載	事業目的の一層の推進のため、以下の2点に取り組む。 ・ お祝い会でつくったきっかけをもとに、より地域との交流を深めてもらうことを目的とした交流会も開催してもらえるよう支援する。 ・ 支え合いのしくみづくり推進員が企画運営について開催団体をサポートする体制を整える。					

【No.】 事業名	【04】 地域包括ケア推進モデルハウスの設置					
担当課・係	健康福祉課・高齢介護担当（地域福祉担当）					
目標No.	1	2	3	4		
事業目的	<p>支えあいの仕組みづくりを進めるための拠点として、各区にモデルハウスを設置し、常設型地域の茶の間の運営や生活支援、介護予防活動などを実施するとともに、その活動ノウハウについて、地域に普及を図る。</p>					
R4年度の目標	中央区附船町に、中央区モデルハウスとして「しまもち笑顔の家」を設置					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
モデルハウス設置数	2	2	2	2	1	1
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区附船町に、中央区モデルハウスとして「しまもち笑顔の家」を設置。感染症拡大防止のために、開催や内容（食事の提供など）に制限がありながらも、中央区の茶の間の見本として、見学なども多く、テレビ等の取材なども通じて、その活動を示している。 ・看護師、保健師及び理学療法士を派遣し、健康相談等を実施した。 					
達成度 【 4 】	<ul style="list-style-type: none"> ・また、地元の包括との連携だけでなく、中央区のチームオレンジ活動の拠点となるなど、地域の支えあいのモデルとしても展開を広げている。 <p>以上から、達成度は4とする。</p>					
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大対策のための、活動内容の工夫 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、様々な支えあいの拠点となるモデルハウスの存在を目指す。 					

【No.】 事業名	【05】 協議体設置と生活支援コーディネーターの配置						
担当課・係	健康福祉課・高齢介護担当（地域福祉担当）						
目標No.	1	2	3	4			
事業目的	地域での支え合い活動を充実していくため、地域の現状把握や課題の抽出、地域団体のネットワーク構築といった役割を担う協議体の設置と生活支援コーディネーターの配置を行い、住民同士の支え合いのしくみづくりを進める。						
R4年度の目標	各圏域（5圏域）ごとに生活支援コーディネーターを配置						
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
配置数	5	5	5	5	5	5	
R4年度の取組と評価	5圏域（関屋白新・寄居新潟柳都・宮浦東新潟・鳥屋野上山・山潟）に生活支援コーディネーターを配置。月1で、連絡会を開催し、各圏域での取り組みの報告や意見交換などを実施。						
達成度 【 4 】	達成度は4とする。						
R4年度の課題	支え合いの仕組みづくりとして、地域の茶の間との連携を起点としている圏域が多いが、感染症拡大対策での活動制限についての工夫が課題となっている。						
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	5圏域での生活支援コーディネーターの配置を継続						

【No.】 事業名	【06】 地域の茶の間の推進					
担当課・係	健康福祉課 高齢介護担当（地域福祉担当）					
目標No.	1 2 4					
事業目的	新しい生活様式を踏まえながら、だれもが気軽に集まり交流できる場である地域の茶の間を通じ、住民同士が支え合う仕組みづくりを進める。					
R4年度の目標	地域の茶の間の活動を支援、支え合いの仕組みづくりとの連携を図る					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
中央区内週1開催 茶の間数	6	11	12	11	11	11
R4年度の 取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回開催の茶の間が11か所で開催されており、各茶の間ごとに感染症対策を行いながら活動を行っている。一定の制限がある中で地域活動の推進に努めた。 ・以上から、達成度は3とする。 					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大対策のための、活動内容の工夫 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域の茶の間の活動を支援していく。 					

【No.】 事業名	【08】 あんしん連絡システム事業					
担当課・係	中央区健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	1 5					
事業目的	・在宅のひとり暮らし高齢者等に対し、24時間体制の受信センターに通報することができる装置を貸与し、利用者からの通報による出動や関係者等への連絡を行う。					
R4年度の目標	・緊急時の連絡協力員の必要性について説明をし理解を得ることで、システムの利用の推進を目指す。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末)
新規	62	45	52	28	48	48
廃止	▲ 95	▲ 111	▲ 97	▲ 66	▲ 75	▲ 72
当年度末台数	555	489	444	405	378	354
台数の内訳						
あ：あんしん連絡	あ 486	あ 434	あ 400	あ 371	あ 352	あ 330
福：福祉電話	福 67	福 54	福 43	福 34	福 26	福 24
シ：シルバーホン	シ 2	シ 1	シ 1	シ 0	シ 0	シ 0
R4年度の 取組と評価	・事前に協力員の必要性を説明しながらも、やむを得ず見つからない場合もあるが申請者にはご理解をいただきながら利用していただいている。達成度は3とする					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	・協力員が不在の方で身寄りもない場合、機器の取り外しの立ち合いで関係者が誰もいない場合や、協力員は基本2名の登録であるが、やむなく1名でも受けている状況もある。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	・ひとり暮らしの高齢者への緊急対応制度として、あんしん連絡システムについて引き続き実施する。					

【No.】 事業名	【09】 高齢者等あんしん見守り活動事業					
担当課・係	健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	1 5					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の「孤独死」や親族・地域との関わりを持たない「社会的孤立」状態を防ぐため、地域住民主体の見守り体制や民間事業所と連携した見守りネットワークを構築し、安心・安全な地域づくりを進めるもの。 					
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異変の連絡を受けた後、速やかに関係機関と連携して対応を行う。 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末)
協力事業者の推移						
全 市	124	139	333	331	331	333
中央区	38	39	97	99	101	102
※市内全域も含む						
R4年度の 取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞が数日間分が溜まる、配食弁当が手つかずなどの異変時における関係機関との速やかな連絡がなされている。 ・達成度は4とする。 					
達成度 【 4 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との交流を望まれない独居高齢者などへの関わり方が難しい。 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業所と連携した高齢者のセーフティーネットとして、高齢者等の異変時の対応を引き続き行う。 					

【No.】 事業名	【10】 地域包括支援センター運営事業					
担当課・係	中央区健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	1	2	3			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法に基づく、地域住民（主に高齢者）の総合相談・支援、虐待防止、権利擁護、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。 ・主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士が配置され、専門性を生かして相互連携しながら業務にあたっている。 					
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各圏域のケア会議で出された課題について、包括支援センターをはじめとする関係団体と連携し、解決に向けた取り組みを進める。 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4(1月末)
総合相談業務実績 合計（延数）	31,063	31,871	32,625	29,976	29,629	23,881
（内訳） 地域・本人家族	17,967	17,184	17,421	15,453	15,470	12,922
居宅介護事業所	4,040	4,396	5,061	4,726	5,623	4,470
その他	9,056	10,291	10,143	9,797	8,536	6,489
R4年度の 取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の関係者や関係団体と連携して、業務運営を行っている。困難案件は必要に応じて区や包括で情報共有をはかり、課題解決へ繋げている。 ・複雑な相談対応が増えるなか、各圏域における課題解消に向けた取組みは進められており、達成度は4とする。 					
達成度 【 4 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各圏域の課題や各種相談業務について、関係団体と連携し解決に向けて取り組んでいるが、困難な相談対応が増え時間を要している。 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・各圏域毎の課題の解消に向けて、関係機関と連携して取り組み、高齢者が安心して地域で生活ができるよう支援する。 					

【No.】 事業名	【11】 老人憩の家の活用					
担当課・係	健康福祉課 高齢介護担当					
目標No.	2 4					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・老人憩の家は、高齢者相互の親睦や教養の向上レクリエーションを行う場として市が設置している施設、浴室や広間などを備えている。 					
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の状況は異なるため、特徴を活かした取り組みが出来るよう、指定管理者と協力して高齢者の集いの場として維持する。 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
なぎさ荘	67	70	64	35	34	36
ひばり荘	39	39	34	23	24	27
沼垂荘	84	82	82	70	72	70
烏屋野荘	40	37	39	31	34	31
山潟荘	27	26	20	16	16	16
米山荘	60	59	51	40	42	39
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・マスク・検温の徹底と密集の回避による利用の周知を行うことで、利用者への意識付けを行っている。 ・現状では大きな問題や事故等なく運営がなされている。 ・達成度は3とする。 					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策の徹底 ・施設老朽化への対応 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の状況は異なるため、それぞれに可能な範囲での対応を行い、感染対策を徹底したなかで、指定管理者と協力して高齢者の集いの場として維持する。 					

【No.】 事業名	【12】 介護予防・日常生活支援総合事業					
担当課・係	健康福祉課・高齢介護担当					
目標No.	1	2	3	4		
事業目的	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、要支援者などを対象にフレイル（虚弱）予防を含めた地域主体による介護予防や生活支援の取り組みが広がるよう支援する。					
R4年度の目標	握力や筋肉量、滑舌などについて機器を使って計測したり、体や生活についてチェックするフレイルチェックを開催する。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末)
実施回数			8回	8回	6回	10回
参加者数			163人	60人	91人	63人
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事業にくり返し参加することで、より介護予防の推進に効果があるが、参加継続者が増加しない状況となっている。 ・参加者が支援者とともに生活習慣改善の目標設定をする時間を設けたり、啓発チラシを改善して配布したりと、参加者数増加に取り組んでおり、新型コロナウイルスの影響がある中、一定の参加者を確保できた。達成度は3とする。 					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新規および継続参加者を確保し、活発な活動につなげる必要がある。 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に十分配慮しながら、区民のフレイル防止のために開催を継続していく。 					

【No.】 事業名	【14】 障がい児者基幹相談支援センター事業					
担当課・係	障がい福祉係					
目標No.	3					
事業目的	地域における障がい児者相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを設置し、相談支援体制の充実を図る。					
R4年度の目標	<p>ワンストップ相談、「傾聴」を第一に相談受付を行い、相談者の状況に応じて、訪問支援・同行支援を行うなど伴走支援を心がける。</p> <p>関係機関と連携した支援がいつでも行えるよう、定期的な情報共有を行う。</p>					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
支援件数	7,573	7,291	5,945	5,862	5,818	6098 (4月～1月)
R4年度の取組と評価	<p>相談業務のほか、相談支援事業所等を対象とした研修会や他機関との連携会議を定期的で開催し、相談支援体制の強化を図った。</p> <p>またこども連絡会ではがくふく連携会議を2回開催し特別支援学校の教員と計画相談員との顔の見える関係作りを行った。</p> <p>障がい者の高齢期を考えるワーキングを立ち上げ、介護保険への移行について学びを深めた。また中央区には共生型生活介護や基準該当生活介護がないため、デイサービスの職員に向けて説明会を行う予定。</p>					
達成度 【 3 】	以上のことから達成度は3とする。					
R4年度の課題	<p>相談支援件数は横ばいだが、職員4名で多種多様な相談に対して相談支援業務を行っている。また、細やかな対応が求められる中、職員の異動もあることから、職員の相談支援業務スキルの向上が課題としてあげられる。</p>					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標などを具体的に記載	<p>他区と違い、中央区には計画相談支援事業所や福祉サービス事業所等、数多く新設されている。福祉サービスが増えることは、選択の幅が広がり、ご利用者にとって良い半面、新しい事業所のスキルやサービスの質が問われる。スキルアップや人材育成について、各事業所とともに、研修会等を積極的に企画していく。</p>					

【No.】 事業名	【15】 地域活動支援センター事業					
担当課・係	障がい福祉係					
目標No.	2・3					
事業目的	<p>障害者総合支援法により定められた、障がいによって働くことが困難な障がい者の日中活動をサポートする事業者に補助金を交付し、障がい者の自立と社会参加活動を支援する。</p>					
R4年度の目標	<p>引き続き地域活動支援センターへの視察を行うとともに、毎年行う運営検査を通して助言・指導を行いながら施設の質を高めていく。</p>					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
地域活動支援センター数（中央区）	I型：2 II型：2 III型：8	I型：2 II型：2 III型：10	I型：2 II型：2 III型：7	I型：2 II型：1 III型：7	I型：2 II型：1 III型：8	I型：2 II型：1 III型：7
登録者数	I型：199 II型：104 III型：199	I型：195 II型：98 III型：294	I型：159 II型：102 III型：303	I型：192 II型：51 III型：241	I型：139 II型：47 III型：267	I型：150 II型：45 III型：200
R4年度の取組と評価	<p>R4年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、職員視察を行えなかったが、地域活動支援センターの運営検査に合わせて3カ所訪問し、事業所に対して運営に対する助言・指導を行うとともに、地域活動支援センターの役割や支援内容への理解を深めた。また、訪問を行わなかった事業所に対しても書面による検査実施し、補助金申請等の手続きがスムーズに行われるよう助言・指導を行った。</p>					
達成度 【 3 】	<p>以上のことから達成度は3とする。</p>					
R4年度の課題	<p>R4年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、職員視察を行えなかった。引き続き、視察を通して職員が地域活動支援センターの業務を把握し、担当が変わっても適切に助言・指導をできる必要がある。</p>					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<p>中央区内の地域活動支援センターは10施設あり、他区に比べて充実している。今後も、継続して視察を行うとともに、毎年行う運営検査を通して助言・指導を行いながら施設の質を高めていく。</p>					

【No.】 事業名	【16】 成年後見支援センター事業					
担当課・係	障がい福祉係・高齢介護担当					
目標No.	3					
事業目的	市民からの相談に対応するとともに、成年後見制度の普及や市民後見人の養成・活動支援を行い、成年後見制度による支援を必要とする方々への権利擁護を推進する。					
R4年度の目標	引き続き支援を必要とする方の権利擁護のために、センターにおいて相談、助言を遂行する。区としても、窓口来庁者や関係機関等に成年後見制度の周知を図るとともに、身寄りが全くいない等で成年後見申立が困難な方については、市長申立てにより成年後見制度の利用につなげるなど支援をしていく。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
成年後見センター 相談数（延数）	1,517	1,306	1,001	645	687	818 (4月～1月)
内新規相談件数 (延数)	460	446	351	211	352	403 (4月～1月)
R4年度の 取組と評価	新型コロナウイルスの感染拡大を受け、成年後見支援センターへの相談が減少していたが、令和4年度の相談件数は、感染拡大前の状況に戻りつつある。また、身寄りがいない高齢者や障がい者など、成年後見申立てが困難な方の市長申立の相談が増えており、前後期合わせて12件申請があり適切に対応した。					
達成度 【 3 】	以上のことから達成度は3とする。					
R4年度の課題	高齢化の進展にともない、潜在的に成年後見人を必要としている者はまだ多くいると見られ、支援の場につないでいくことが課題としてあげられる。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	高齢化の進展にともない、今後ますます成年後見制度の需要は高まると思われる。対象者と関わりのある介護事業所や障がい事業所に機会をとらえて広く周知していく。また、身寄りがいないため成年後見の申立が困難な方について関係者と協力しながら市長申立の手続きを進めていく。					

【No.】 事業名	【17】 地域子育て支援センター事業						
担当課・係	中央区健康福祉課 児童福祉係						
目標No.	1 3						
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域における子育て環境の変化や、子育て中の親の孤独感や不安感の増大などに対応するため、地域子育て支援センター（市立2施設・私立6施設）で乳児と保護者の相互交流、子育て相談についての相談、情報共有の提供、助言などの支援を行う。 						
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議（中央区子育て支援センター等連絡会議）を開催し、現状や課題等の情報交換を行い、各センター間のさらなる連携とサービスの向上を図る。 						
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
相談件数 (件)	1,442	1,593	1,696	1,543	1,771	1,804 (R4.12末)	
R4年度の 取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年9月、12月、中央区内の地域子育て支援センター間の相互理解と連携を深めるとともに、各施設のサービス向上を図るため、各施設の運営の現状や課題等の情報共有と意見交換を行った。 ・各センターの受け入れ体制や講座の開催状況等の施設情報をまとめた一覧表を作成し、それぞれの取り組みの共有を図るとともに、相互で他の施設の特徴等を利用者へ紹介し合う連携体制を構築した。 ・以上のことから達成度は3とする。 						
達成度 【 3 】							
R4年度の課題	<p>新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、地域子育て支援センター利用者の減少が進んでいることから、利用者が安心して過ごせる施設側の配慮や工夫を行うとともに、親子で出かける場所が限定される状況の中でも親子の不安感等を解消するための相談機能やスキルのさらなる向上が必要である。</p>						
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意した施設運営を引き続き行うとともに、行き場のない親子の不安感等に寄り添った相談対応や親子の仲間づくりの場の提供などを行い、子育て支援機能のさらなる充実を図る。 						

【No.】 事業名	【18】 地域子育て支援センター訪問事業					
担当課・係	中央区健康福祉課 児童福祉係					
目標No.	1 3					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦を対象に、これから始まる赤ちゃんとの生活を応援するマタニティプログラムを地域子育て支援センターで開催し、子育てに対する不安の軽減を図る。 					
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マタニティプログラム開催 8回 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
マタニティプログラム 開催数（回）	10	8	8	6	5	8
R4年度の 取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦向けの講座を八千代子育て支援センターで4回、鳥屋野子育て支援センターで4回開催し、妊婦の不安軽減や仲間づくりの場の提供を行った。 ・以上のことから達成度は3とする。 					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・出産前の妊婦やその家族のニーズに応じた講座内容の充実と新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意した講座の運営が必要である。 					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの意見等を参考に内容の改善を図り、引き続き出産前の妊婦やその家族の不安の軽減、仲間づくりの場を提供し、出産前から地域子育て支援センターを利用する機会を創出する。 					

【No.】 事業名	【21】 地域子育て支援拠点の運営					
担当課・係	中央区健康福祉課 児童福祉係・こども支援係					
目標No.	2 3					
事業目的	<p>・家庭や地域における子育て環境の変化や、子育て中の親の孤独感や不安感の増大などに対応するため、地域子育て支援センター（市立2施設・私立6施設）、子育て応援ひろば等で乳児と保護者の相互交流、子育て相談についての相談、情報共有の提供、助言などの支援を行う。</p>					
R4年度の目標	<p>・地域子育て支援センター等における電話やオンラインを活用した相談対応について、事例等を共有し、事業拡充の検討を行う。</p>					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
地域子育て支援センター [8施設分]利用者（人）	47,272	48,046	44,177	42,536	35,853	33,753 (R4.12末)
子育て応援ひろば 利用者（人）	29,636	28,137	24,437	9,732	9,782	8,549 (R4.12末)
新潟市児童センター 利用者（人）	22,517	21,605	20,895	9,369	11,317	10,433 (R4.12末)
R4年度の 取組と評価	<p>・令和4年9月、中央区子育て支援センター等連絡会議で各施設の電話やオンラインを活用した相談対応について情報を共有するとともに、オンラインを活用した相談機能について検討を行った。</p>					
達成度 【 3 】	<p>・以上のことから達成度は3とする。</p>					
R4年度の課題	<p>・各施設のネットリテラシーのさらなる向上が必要である。 ・育児相談については、現状、対面実施のニーズが高く、直接施設を訪問し、お話しをしたい保護者が多いため、オンラインによる育児講座等のイベントを通して気軽に利用できる仕組みの構築が必要である。</p>					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<p>・今後も新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意した施設運営は継続することから、オンラインを活用した育児講座等を試行的に開催し、課題を解決しながら事業拡充の活路を見出していく。</p>					

【No.】 事業名	【22】 子ども家庭相談					
担当課・係	中央区健康福祉課 こども支援係					
目標No.	1 3					
事業目的	令和4年度より各区健康福祉課内に配置された虐待対策担当に、新たに専門の相談員を配置し、子ども家庭総合支援拠点として体制を強化した。専門の相談員を主体に関連機関への積極的な働きかけや、要保護児童に対するアウトリーチの一環として、積極的に学校や保育園等を訪問調査を行い、虐待の予防や早期発見に努める。児童虐待相談に対しては、これまでと同様に関係機関等と研修等を含め連携体制を維持または強化して、要保護児童等への支援を行う。					
R4年度の目標	児童虐待防止及び児童福祉に係る研修や啓発活動を年10回開催する。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
実施回数	2	4	11	10	13	10
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関職員等を対象とした研修・講義を8回実施した。 ・関係機関に訪問した際に児童虐待の発見時の対応等の啓発を1回と、市民対象の児童虐待防止の啓発を新潟中央警察署とこども政策課と一緒に1回実施した。 					
達成度【 3 】	<ul style="list-style-type: none"> ・以上から、合計10回実施し、目標の回数を達成したことから、達成度は3とする。 					
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、家に閉じこもる家庭があり、児童虐待やDVが起こる可能性（リスク）が高くなっている。 ・子どもの見守り機会の減少を踏まえ、虐待の発生予防のため、虐待を通じて支援が必要な児童や家庭を早期に把握し、定期的に見守る体制を確保することが課題。 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、関係機関との緊密なネットワークを継続させながら、支援が必要な児童等を、早期に把握する体制を強化するとともに、定期的に見守る体制を確保し、子育て世帯への支援を行なう。 					

【No.】 事業名	【28】 みんなでつながるにっこにこ子育て応援事業 ＜中央区特色ある区づくり事業＞						
担当課・係	健康増進係						
目標No.	2 3						
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期から子育て期に安心して子育てができる体制づくりと、保健師・助産師等の専門職による切れ目ない支援を地域の関係機関と連携・協働して行う。 ・保健師・助産師などの専門職に気軽に相談でき、仲間づくりができる場の提供。 ・子どもの成長発達や関わり方を学ぶ子育て講座の開催 						
R4年度の目標	○妊カフェ・育カフェ・育ばる 参加後の気持ちの変化 不安が軽減した人が90%以上 ○10か月育ちの講座 児との関わり方がわかった人が90%以上						
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4(12月末)	
妊カフェ参加者数 【アンケート結果】	186人	220人	165人 ※3月中止	※6月再開 リモートのみ 58人 【90.2%】	※会場・リモート 114人 【96.0%】	200人 【97.8%】 ※夫・パートナー 98.5%	
育カフェ参加者数 【アンケート結果】	358人	466人	364人 ※3月中止	※6月再開 リモート・会場 136人 【91.9%】	※会場・リモート 119人 【96.6%】	171人 【96.5%】	
育ばる参加者数 【アンケート結果】			162人 ※3月中止	※6月再開 リモート・会場 56人 【85.7%】	※会場・リモート 59人 【98.2%】	65人 【98.5%】	
子育て講座 (10か月育ちの講座) 【アンケート結果】	乳児198人 幼児138人	乳児237人	296人 ※3月中止	※5月再開 リモートのみ 93人 【100%】	※会場・リモート 204人 【99.0%】	133人 【98.5%】	
R4年度の 取組と評価 達成度 【 4 】	・妊婦支援強化のため妊カフェを2回1コースとし、2回目は夫・パートナーの参加可とした。夫・パートナーのアンケートから「サポートが必要だと強く思い、頑張ろうと思った」「沐浴体験ができ、不安が減った」等の感想があり、これからの育児について考える良い機会となったことがうかがえる。他の講座もアンケート結果から目標は達成、総合的に判断し4とする。						
R4年度の課題	・コロナ禍で産科医療機関での安産教室等が引き続き中止となっており、妊婦支援強化のために夫やパートナーを含めた支援が必要。 ・対面での講座希望が多く、感染対策を講じたうえでより多くの希望者が参加できるよう取り組みが必要。						
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	・「妊カフェ」は妊婦支援強化のため実施回数を増加し継続。「育カフェ」は5か月までの児と保護者の相談先として継続。「育ばる」「10か月育ちの講座」は内容を整理、「10か月育ちの講座」として実施回数を増加。 ・関係機関との連携会議を継続。						

【No.】 事業名	【29】レッツ トライ！糖尿病予防事業 ＜中央区特色ある区づくり事業＞					
担当課・係	健康増進係					
目標No.	4					
事業目的	・区の健康課題の1つである糖尿病について、多くの区民に関心を持ってもらい、糖尿病の正しい知識や予防方法を啓発に取り組む。特に健診受診と糖尿病予防につながる生活習慣改善について啓発を行う。					
R4年度の目標	・HbA1cの認知度向上のため、地域へ専門職を派遣した健康講座の開催をする。また関係機関と連携し、特に若い世代や新しい層へ健診受診と糖尿病予防の啓発を行う。 * HbA1cが糖尿病予防のために必要な項目と理解できた人の割合：90%以上					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
11月糖尿病イベント (ブース参加)	—	300人超	300人超	119人超 (82人)	イベント 未開催	137人
特定健康診査受診率	33.4	34.0	35.5	32.9	34.39	14.7 (R4.12時点)
講座アンケート結果 H b A 1 c の理解度	—	—	—	97%	98%	94.4%
R4年度の 取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを再開し、ルフル広場等屋外の会場や各施設で啓発活動を実施。糖尿病と関連の深い歯周疾患も加え新たな対象に啓発できた。(上記他3回386人) ・乳児を持つ保護者を対象に、糖尿病予防の大人向けメニューから離乳食を作る講座を実施。(11回) ・市内小・中学校の保護者向けに、健診受診と糖尿病予防に関するリーフレット・啓発グッズを配布(小学校19校6年生、中学校5校)実施にあたり、小学校校長会や小中学校の養護教諭に区の健康課題を説明し、学校ごとの取組ができた。 ・商店街組合理事会で区の健康課題を説明、加盟店に受診勧奨のリーフレット配布。 ・区内8店舗で提供していたヘルシーランチは保健所業務の野菜deちょいしおに移行。 ・コミ協等地域の団体に栄養士等専門職を派遣した講座を実施。(4回) ・その他、糖尿病予防セミナーを開催したり、各団体に出向いた際に健診受診方法や健診結果の確認、生活習慣改善の講話実施。以上のことから達成度は3とする。 					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの実施は屋外や屋内の広い会場を選び、密にならないよう配慮が必要。 ・健康づくりの啓発は、定期的な健診受診の大切さと受診方法等も周知すること、学校・地域の各機関との連携をもつことで新しい対象を拡大していくことが必要。 ・健康講座はコロナ禍で中止する団体もあり、講座以外でも啓発できる工夫が必要。 					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校・商工会関連機関等と連携し、健診受診勧奨と生活習慣の改善・糖尿病予防の啓発を行う。連携により新たな対象へ周知したり、新規国保加入者や連続未受診者等、対象者に合わせた勧奨を行うことで、健診受診率向上に努める。 ・健康講座などでは、定期的な健診受診と糖尿病予防につながる生活習慣への行動変容を図る。 					

【No.】 事業名	【32】 生活困窮者自立促進支援事業					
担当課・係	中央区保護課 保護第3係					
目標No.	3					
事業目的	生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的な相談支援を実施するとともに、多様な就労支援や生活支援事業を実施することで様々な問題を抱えた支援対象者の自立を促進するもの。					
R4年度の目標	困窮者本人、その親族や知人、民生委員など地域の方々、携わった医療や介護等の機関等と連携し、来所や訪問による面談を実施し、支援制度を適用、あるいは生活保護をはじめとする適切な福祉制度や法律相談等に繋げていく。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4(~R5.1)
一時生活支援事業	44件	66件	66件	59件	56件	54件
住居確保給付金	9件	4件	7件	161件	73件	53件
R4年度の取組と評価	R4年度の「一時生活支援」「住居確保給付金」については上記のとおりである。住居確保給付金については、新規申請件数は減少してはいるものの、延長・再延長などで継続して支援を受けるケースがある。期間の延長、その延長ごとの要件の変更があり、担当会計年度任用職員2名体制で、迅速かつ的確に給付決定に繋いだことから、達成度は3とする。					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	困窮者本人、その親族や知人、民生委員など地域の方々、携わった医療や介護等の機関等と連携し、来所や訪問による面談を実施し、支援制度を適用、あるいは生活保護をはじめとする適切な福祉制度や法律相談等に繋げていく。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標 などを具体的に記載	今後も、相談者の状況に応じた包括的な相談支援を実施するとともに、多様な支援事業を実施することで、様々な問題を抱えた支援対象者の自立を促進する。					

【No.】 事業名	【33】 子ども学習支援事業					
担当課・係	中央区保護課 保護第4係					
目標No.	1・3					
事業目的	生活保護世帯（生活困窮世帯及びひとり親世帯を含む）の中学生の学習習慣を定着させ、学力向上を図る。					
R4年度の目標	<p><子ども勉強会の開催委></p> <ul style="list-style-type: none"> 「子ども勉強会」の参加対象者に対する勉強会への出席率 50% <p><学習支援員による家庭訪問実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援員による家庭訪問及び学習相談実施回数 15回 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
参加対象者に対する参加生徒の割合(%)	33	49	48	62	53	51
家庭訪問実施回数(回)	9	6	14	6	16	20
R4年度の取組と評価	<p>毎週末に「子ども勉強会」を引き続き実施し、参加生徒の学習習慣の定着を推進した。なお、今年度も新型コロナウイルス感染症予防の観点から、手指消毒やマスク着用の徹底、参加生徒や学習ボランティアの体調確認を行い、安全な学習環境を整えるとともに目標を達成することができた。</p> <p>また、学習機会の喪失につながらない様、関係者間で調整し中央区外からも生徒の受け入れを行った。</p> <p>以上から、達成度は3とする。</p>					
達成度【 3 】						
R4年度の課題	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、生活保護世帯への家庭訪問を通じた参加勧奨が十分にできない状況が続いてしまった。					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標などを具体的に記載	引き続き勉強会を実施し、参加生徒の学習習慣の定着と対象世帯及び子どもの自立助長を図るとともに、参加希望者の取りこぼしが生じない様、関係者間で調整を行い学習機会が失われることが無い様柔軟な運営に努める。					

【No.】事業名	【36】避難行動要支援者対策					
担当課・係	中央区健康福祉課 地域福祉担当 中央区総務課 総務・安心安全グループ					
目標No.	1 5					
事業目的	・心身の状態などにより災害時に自ら避難することが困難な方（要支援者）の名簿を作成し、地域の自主防災組織などの支援者や、消防機関、警察署、民生委員などに提供することで、災害時における地域での共助を支援する。					
R4年度の目標	・必要な人に支援がいきわたるよう、引き続き地域包括支援センター等の関係機関と連携して、制度の周知に力を入れる。 ・要支援者と支援者のつなぎ役として制度を支える民生委員の理解を深める。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
中央区名簿登載者数	5,087人	4,481人	4,366人	4,110人	3,949人	3,689人
中央区自主防災組織結成率（世帯比％）	85.4%	85.7%	85.8%	85.0%	86.8%	89.2%
R4年度の取組と評価	・防災意識の高まりから、当制度への関心も高まっており、問い合わせや窓口での申請受付が増える中、年二回（6月、12月）の名簿更新を着実に実施し、支援者等への提供を行った。 ・名簿の更新や、同意のための訪問依頼時などの折々に、民生委員児童委員協議会会長会での丁寧な説明を行うとともに、配布資料の改善を重ね、民生委員へのわかりやすい情報提供が行えた。					
達成度【 4 】	・個別支援計画の策定率が低かったため、自治会・町内会へ策定の必要性を周知したことにより、策定率の向上が図られた。以上から、達成度は4とする。					
R4年度の課題	・制度開始（旧災害時要援護者制度・平成17年）から年月が経過し、社会情勢の変化の中、名簿の管理や支援者との役割分担において制度が煩雑化する傾向にあり、今一度の整理が必要。 ・施設に入所する要支援者の増加により、名簿登載者数だけでは情勢の変化が把握できなくなってきている。 ・感染対策の観点から、地域での見守りや訪問の在り方も変化しており、支援者や民生委員の負担軽減が課題。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標などを具体的に記載	・必要な人に支援がいきわたるよう、引き続き関係機関と連携して、制度の周知に力を入れる。 ・名簿の管理方法など、関係者の負担軽減につながる簡便化を検討する。					

【No.】 事業名	【37】 避難行動要支援者関係づくり事業 (区づくり事業)					
担当課・係	中央区総務課 総務・安心安全グループ					
目標No.	1 5					
事業目的	避難行動要支援者との関わり方を模索する自治会・町内会等の支援者が多いという現状を受け、中央区では、支援者と避難行動要支援者の顔の見える関係づくりの機会を提供する事業を平成25年度から実施している。啓発品の配布をきっかけに支援者と避難行動要支援者の顔合わせを行ってもらい、避難行動要支援者の支援体制づくりを推進する。					
R4年度の目標	啓発品交付決定要支援者数 540人					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
衛生用品ポーチ交付数	465	706	390	986	542	265
FMラジオ交付数		686	410	992		
※啓発品は3年ごとに見直しあり						
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者を支援する意向の自治会・町内会からの申請に基づき、名簿登録者に配布する啓発物品を支給した。 ・啓発品については、高齢者や障がい者にも易しい内容で、災害時にも役立つと考え、FMラジオと衛生用品ポーチを選定した。 ・取り組みの結果、前期は265名の要支援者に交付できた。後期は、1月下旬に新規に要支援者の名簿登録のあった自治会に対し、事業の啓発用チラシを送付済みである。R4年度で事業が終了となることもあわせて、事業の周知に努めている。目標達成に向け取組中であるため、達成度は3とする。 					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は顔の見える関係づくりを支援する事業であり、新型コロナウイルスの感染症対策に配慮しながらの取り組みとなったため、自治会側・町内会の負担も大きかったとの声が多かった。 ・新たに避難行動要支援者制度の活動に取り組むことに賛同して頂いた自治会・町内会は令和3年度は0件で、周知が不十分であった。 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度で本事業は終了予定だが、区づくり事業で防災・防犯・交通安全対策を一体的かつ総合的に取り組むこととしたので特殊詐欺の対策と併せて啓発をしていく予定。物品を支給する事業は終了予定だが、関係づくりが残るよう内容を検討していく。 					

【No.】 事業名	【39】 犯罪のない地域づくり事業					
担当課・係	中央区総務課 総務・安心安全グループ					
目標No.	5					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区は8区の中で最も人口が多く、犯罪発生件数も多い。中でも特殊詐欺については、発生件数、被害額など全区の中でも多い状況となっている。警察署等との街頭啓発活動のほか、協力事業者による高齢者宅への訪問啓発を実施することにより、防犯意識の向上を図る。 					
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問啓発人数2,500人を目指す。 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
訪問啓発件数 (目標件数)			2,000人 (----)	2,000人 (2,000)	2,000人 (2,500)	1,500人 (2,500)
R4年度の 取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発だけでなく、協力事業者による訪問啓発も実施することにより、外出頻度の少ない高齢者層にも啓発を実施し、防犯意識の向上を図っている。啓発は年度末まで継続し、目標は達成できる見込みとなっている(令和4年12月末時)。昨年被害の多かった預貯金詐欺は減らすことができたが、オレオレ詐欺などの発生件数、被害金額が増加したことから、達成度は3とする。 					
達成度 【 3 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、街頭啓発の回数や啓発者数を減らすなど、工夫をしながら実施している。 ・若年層への啓発回数や効果的な方法を検討する必要がある。 					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・防犯・交通安全対策を一体的かつ総合的に取り組むことで、安心安全な地域づくりを図っていく。 ・R4年度は避難行動要支援者関係づくりと一体的な啓発を予定している。 					

【No.】 事業名	【44】 ボランティア・市民活動センター運営・育成					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 2					
事業目的	<p>・ボランティア・市民活動、企業による地域貢献活動の相談を受け付けるだけでなく、人材育成としての各種ボランティア講座の開催や情報発信を行う。</p>					
R4年度の目標	<p>・地域団体・企業とつながり、広く市民に関心を呼べるような時世にあった講座を開催する。</p>					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
参加者数						9
R4年度の取組と評価	<p>・降雪時期になると高齢者等から除雪に関する相談が入る。このことから、中央区社協の除雪ボランティア登録者を増やし、また住んでいる地域での住民同士の助け合いにつながることを目的に、11月5日に「ボランティアきっかけづくり講座 地域の困りごとを考える ～雪かきボランティア編～」を開催した。</p> <p>・参加者からは、「雪が降る前の準備や雪かきの基本がわかった」などの感想があり、アンケートは70%の方が「よかった」との回答だった。</p> <p>・また講座終了後、受講者の中で除雪登録ボランティアを希望された方がいた。</p>					
達成度 【 4 】	<p>・以上のことから、達成度は4とする。</p>					
R4年度の課題	<p>・大雪時に雪かきボランティアの依頼があっても、道路事情等によりマッチングするのが難しい。そのため雪かきの助け合いは、より身近な地域で行われる必要がある。</p>					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<p>・正しい知識を持って、安全に雪かきボランティアを行ってもらうために、継続的に開催していく。今後は、より身近な地域での助け合いを浸透させていくためにも、小地域ごとに講座を開催していきたい。</p>					

【No.】事業名	【46】地域福祉推進フォーラム事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1	2	3	4	5	
事業目的	・時勢にあったテーマを中心とした福祉に関する講演・パネルディスカッション等を行う。					
R4年度の目標	・区民向けに研修会を開催する。認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくために、認知症を取り巻く現状を学ぶとともに、現在、地域・学校・企業等で行われている取り組みを共有することにより、これから何ができるのか、どうしていくべきかについて考える機会とする。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
参加者数	89	143	334	—	123	
R4年度の取組と評価	<p>・3/4（土）13：30～15：30 新潟市民プラザにて開催予定 「認知症を取り巻く現状と共生に向けた様々な取り組みについて」みどり病院認知症疾患医療センター、「入舟地区認知症はいかい模擬訓練について」チームオレンジ in しもまち、「福祉教育（認知症サポーター養成講座）の取り組み」新潟市立女池小学校による講演とシンポジウムを行う。</p> <p>・コロナ禍のため、参加形態を会場+オンラインでのハイブリット開催とする。</p>					
達成度 【 4 】	・開催はこれからであるが、区内の先進的な取り組み内容を紹介できるため、達成度は4とする。					
R4年度の課題	・開催後、参加人数やアンケートの結果等により検討する。					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	・引き続き、地域福祉活動の活発化のために、各団体や個人が取り組みやすいような、先駆的な実践発表を行うことを中心とした講演、シンポジウム等を行う。					

【No.】 事業名	【47】 友愛訪問事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 3 5					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者等見守りの必要な世帯を定期的（月に1回）に訪問・声かけをし、安否確認や孤独感の解消を図る。年末（12月30日）には友愛訪問対象者におせち料理を配食し、年末年始の孤独感の解消を図る。 ・訪問のため地域のボランティアの協力を仰ぎ、安心・安全な地域づくりを進める。 					
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施地区 1減 ・研修会アンケート満足度 70% 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
実施団体	38	37	37	37	35	35
訪問世帯数（7月）	2,546	2,432	2,334	2,242	2,162	2,089
おせち配食数	2,668	2,549	2,446	2,330	2,237	2,088
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中にあって感染予防に努めながら声かけ訪問が行われており、高齢者世帯の安心感につながっている。 ・実施団体については昨年度と変わらなかった（1団体減、1団体増）。 ・研修会についてはコロナウィルス感染拡大防止のため、大人数による研修会は見送ったが、民生委員児童委員の改選の年であったため、各地区民協の定例会等で本事業について説明を行った。実施時期が地区によってちがうため、アンケートは実施していない。 ・以上のことから達成度は4とする。 					
達成度 【 4 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地区民児協で取り組んでいない地域では、後継者不足で活動の継続が難しくなっている地域がある。 ・友愛訪問事業の実施団体がない空白地域がある。 					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大により外出の機会が減少している高齢者に定期的に訪問することは安否確認や孤独感の解消に有効であると思われるので実施団体にも更に理解を深めていただき、継続していきたい。 ・空白地域については、機会をとらえて協力を検討していただくよう働きかけていく。 					

【No.】 事業名	【50】 コミュニティソーシャルワーク推進事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 2 3					
事業目的	・生活上の困りごとを抱えた方への支援、安心して暮らせる地域づくりや住民の組織化について、住民や関係機関と協力・連携しながら推進する。					
R4年度の目標	・あらゆる相談に応じる窓口として支援に取り組み、団体の立上げを支援、ネットワーク化を進める。喫緊の課題に応じたセミナー・講座を企画、開催する。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
相談受付票集計数	515	555	594	1344	887	(集計中)
R4年度の取組と評価	<p>・前年度の引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少等生活困窮に関する相談が増加している。困窮に加えて8050、ひきこもり等複合的な課題を抱える世帯が多く、関係機関と連携しながら支援を行った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付の相談を通して、外国にルーツのある方からの相談が増加している。在住外国人のニーズや現状の把握及び効果的な支援に取り組むため、多文化共生推進のためのプロジェクトチームを立上げ、在住外国人の生活と意識に関するアンケート調査を実施した。</p>					
達成度【 5 】	<p>・アンケート回答者数の見込みは400名としていたが、結果1044名（36の国と地域）の方から回答があった。</p> <p>・以上のことから、達成度は5とする。</p>					
R4年度の課題	<p>・社会の変容により生活課題やニーズが複雑・多様化し、地域活動も従来とは異なる方法が必要とされている。より幅広く柔軟な視点を持って課題解決を図る必要がある。</p>					
今後の方向性	<p>・引き続き、生活上の困りごとを抱えた方への個別支援、安心して暮らせる地域づくりや住民の組織化などの地域支援について、住民や関係機関と協力・連携しながら取り組む。</p> <p>・令和5年度は在住外国人の生活と意識に関するアンケート調査結果を基に、プロジェクトチームないや他機関と検討しながら、外国人の生活課題への対応、参加・活動できる仕組みづくり、課題啓発の実施等に取り組む。</p>					
・継続、変更点 ・次年度数値目標 などを具体的に記載						

【No.】 事業名	【52】 社会福祉事業や活動の周知・広報・啓発					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	3					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の事業や地域活動などを、広く区民に周知・広報することで、地域福祉の推進を図る。 					
R4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において社会環境等の変化に対応した地域福祉活動の推進を図るために、区内の地域団体による福祉活動を共有し、地域福祉活動の発展に寄与することを目的に研修会を開催する。 					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
参加者数						114
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町内会長、地区社会福祉協議会、コミュニティ協議会の方を対象に、7月26日（火）に研修会を開催。 ・内容は、新潟医療福祉大学 社会福祉学部 教授 丸田先生による講演と、コミュニティ協議会および自治会の2団体による実践発表を行った。 ・アンケートからは、「活動の生の声をきけて、やる気になった」「今、コロナ禍で何もできないと思っていたが、できることを考えてやっていきたい。」など前向きな感想が多く、アンケートでは参加者の83%が満足したとの回答だった。 					
達成度 【 4 】	<ul style="list-style-type: none"> ・以上のことから、達成度は4とする。 					
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、「地域では、若い年齢層の参加についてうまくいっていない」という回答があった。若い層の方にも啓発活動を行い、地域活動に関心を持ってもらえるような工夫が必要。 					
今後の方向性 ・継続、変更点 ・次年度数値目標などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域福祉活動活性化のために、地域で行われている活動を共有する機会を設けていく。 ・若い層の方にも、研修会に参加していただくために、参加形態を会場+オンラインでのハイブリット開催もしくは録画公開など、開催方法の工夫をしていく。 					

【No.】 事業名	【53】 災害ボランティアセンター運営事業					
担当課・係	中央区社会福祉協議会					
目標No.	1 5					
事業目的	災害時における災害ボランティアセンターの設置運営及び災害ボランティア活動を円滑に行う体制づくりを目指す。					
R4年度の目標	区民向けに研修会を開催し、災害ボランティアセンターについて理解を深めてもらう。					
実績	H29	H30	R1	R2	R3	R4
災害ボランティアセンター研修会の開催	3回	2回	0回	1回	0回	1回
R4年度の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年の新潟県北部豪雨災害における、村上市及び関川村災害ボランティアセンターの役割を学ぶことにより、新潟市内で災害が発生した場合についてを考えるきっかけの場を作った。 ・コロナ禍の為、参加形態を会場+オンライン参加でのハイブリッド型研修とし、地域住民や関係機関等の幅広い参加により実施した。 ・以上のことから、達成度は4とする。 					
達成度 【 4 】						
R4年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症拡大のなかでも、研修会の開催方法の工夫を考えつつ、地域の広い世代に呼びかけていくことが必要。 					
今後の方向性 ・継続、変更点が ・次年度数値目標などを具体的に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業や学校等の関係機関に対しての周知方法、及び内容について工夫をする。 					